

まちはミュージアムの会・耐恒寮の物語塾【特別講演会】

連続テレビ小説『あさが来た』(NHK)の
ヒロインのモデル
広岡浅子と
唐津市出身の社会運動家
奥村五百子、
明治の
二大女傑は
心友だった!?

定員
100名様



奥村 五百子 (おくむら いおこ)
写真提供：高德寺



広岡 浅子 (ひろおか あさこ)
写真提供：大同生命保険

●日時／平成28年3月12日(土) 14:00～

●会場／旧唐津銀行1階 (唐津市本町1513-15) **入場無料**

●申込・問合せ／0955-72-9115 唐津市役所内
からつ大学交流連携センター・藤岡

※お申込みのない方もご入場はできますが、席に余裕がない場合は、お申込みの方を優先させていただきます。
E-mail:machi8mu@gmail.com

●主催／まちはミュージアムの会 ●後援／唐津市 ●協力／大同生命保険株式会社

平成27年度がんばる地域応援事業・対象事業 ※当日は駐車場の混雑が予想されますので公共交通機関でご来場ください。

唐津西高校設立のきっかけは、 日本女子大を作った広岡浅子だった。 びっくりぽんの新事実が明らかに!?

連続テレビ小説『あさが来た』(NHK)の主人公・白岡あさのモデルになった広岡浅子は、近代日本を代表する女性実業家でした。明治・大正時代にかけて、浅子は大坂の豪商・加島屋を炭坑、銀行、保険など近代的な企業グループへと変える中心的な役割を果たします。また、日本女子大学の設立にも尽力しました。大同生命の創業も浅子の英断によるところが大きかったと伝えられています。

唐津市出身の奥村五百子(おくむらいおこ)は、幕末には尊王攘夷運動にも参加したという、男勝りの女性でした。その後自由民権運動などにも参加した五百子は、1901(明治34)年に戦没者遺族・傷病兵家族の支援組織として「愛国婦人会」を創設、会祖として別格の扱いを受けるに至り、女性社会運動家として名を馳せました。

浅子との関わりもこの愛国婦人会での活動を通じてのものでしたが、この二人は知り合うやすぐに意気投合し、交流を深めたそうです。しかし、さすがは「女傑」と称された二人、会話はすぐに政治や時事問題の議論になるそうで、そこに居合わせた男性記者を大いに驚かせたそうです。

※特設WEBサイト『大同生命の源流“加島屋と広岡浅子”』掲載コラム・広岡浅子を理解するための10人(知人・友人編)より一部引用。



勢ぞろいした広岡一家。前列中央が浅子と信五郎。写真提供:大同生命保険



明治20年西唐津港開発陳情のため奥村五百子が上京した際、大隈重信邸内にて撮影された写真。最前列右より奥村五百子、6番目が大隈重信、その隣に綾子夫人。最前列左から4番目が、唐津市出身で後の早稲田大学二代目学長で経済学者の天野為之。写真提供:高德寺・贈:山辺濟氏

講師プロフィール



奥村五百子編

宮島 清一 (みやじま せいいち)

1950年唐津市生まれ。1882(明治15)年創業の宮島醤油(株)代表取締役社長。京都大学理学部物理科学系卒業。理系の学歴ながら同社のホームページで公開中の『「去華就実」と郷土の先覚者たち』の編纂など郷土史の造詣も深く多方面で講演。



広岡浅子編

小川 琢磨 (おがわ たくま)

大同生命保険株式会社 執行役員 広報部長。昭和59年4月大同生命入社。T&Dフィナンシャル生命保険(株)の企画部長、営業企画部長等を歴任し、平成21年4月より現職(兼(株)T&Dホールディングス広報部長)。平成27年4月より執行役員に就任。